



近日
開催

2024年9月7日 土 8日 日

飯田市役所 C 棟 3 階会議室（オンライン併用）

主催：飯田市歴史研究所 共催：飯田市教育委員会文化財保護活用課

二〇一四年に国史跡に指定された「恒川官衙遺跡」は古代伊那郡の役所（郡衙）跡で、正倉の跡や大量の硯などが出土しています。信濃国南端に位置し、都に近いこの郡衙には、都の情報や物がいち早く伝えられる一方で、都への貢納物の集積地となり、また牧の経営に携わるなど、信濃国の中でも重要な役割が与えられていたと思われます。今回の研究集会では、文献史学・建築史学・考古学の視点からこの遺跡を取り上げ、古代律令国家のもとにあった伊那郡衙や下伊那の姿を考えます。

◆ 9/7 【研究報告】 10:00 - 17:00

開会行事／趣旨説明

講演 = 田島公（東京大学名誉教授／飯田市歴史研究所顧問研究員）

報告 = 羽生俊郎（飯田市教育委員会文化財保護活用課）

講演 = 海野聡（東京大学）

報告 = 田口博人（座光寺 歴史に学び地域をたずねる会）

質疑応答／意見交換

◆ 9/8 【現地見学会】 9:30 - 12:00

見学先 飯田市考古博物館／恒川官衙遺跡

定員 45名（応募者多数の場合、旧日出席者を優先し抽選）

集合 9:15 飯田市役所C棟玄関前（観覧料160円をご持参ください）

◆ 資料代 500円（高校生以下無料）

※ お申し込みは、次の情報を添えて歴史研究所（電話／FAX／メール）まで

①氏名 ②1日目受講方法 ③2日目参加有無 ④電話番号

⑤郵便番号・住所（オンラインのみ）

《締切》会場：9月5日（木）、オンライン：8月23日（金）

国史跡指定
10周年記念

恒川官衙遺跡研究の最前線

― 浮かびあがる古代伊那郡の役所〈伊那郡衙〉 ―

第21回飯田市地域史研究集会

戦後の学校はどのように歩んできたか

—人口・地域・教育の経験—

飯田アカデミア 第104講座

2024.09.21 (土) 22 (日)

講師 木村 元 さん (青山学院大学)

会場：飯田市役所C棟3階会議室

学校を取り巻く環境が急激に変化しています。少子化により学校の統廃合が進み、コロナ禍を契機にオンライン環境が整えられて学校に行かずとも勉強できる条件ができてきています。さらに、AIに代表される情報テクノロジーは学校で学ぶことの意味さえ変えようとしています。このような状況のもとで、学校の意味が広く問われているといえるでしょう。この講座では、学校の果たしてきた役割をその歩みから確認し、こんにち問われていることを考えるための材料を示したいと思います。

私は10年前に『学校の戦後史』(岩波新書)という著でこの問いに向かい合う試みを行いましたが、この間の変化があまりにも大きく、新しい状況を踏まえた作業の必要性を感じてきました。この講座ではその一端を講じたいと思います。

《資料代》500円 (高校生以下無料)

《申込〆切》会場：9月19日、オンライン：9月6日

— プログラム —

9月21日 (土)

第1講 13:30 - 15:00

戦後の学校のもとにあるもの

第2講 15:15 - 16:45

戦後の出発 「山びこ学校」と無着成恭の歩み

9月22日 (日)

第3講 9:00 ~ 10:30

学校化社会の成立 「村を育てる学力」と東井義雄

第4講 10:45 ~ 12:15

学校はなぜ必要か 人類史的な社会変動のなかで

戦国時代の小笠原氏と飯田

地域史講座 (三穂)

2024.09.14 (土)



▲ 旧小笠原家書院

講師 村石 正行 さん (長野県立歴史館)

時間：13:30 - 15:30 会場：旧小笠原家書院

国の重要文化財旧小笠原家書院は、築400年を迎えました。三穂地区では、年間を通して旧小笠原家書院400周年祭を実施しています。信濃国の守護を勤めたこともある小笠原氏、飯田下伊那とは、どのような関係があったのか、そして伊豆木小笠原家初代小笠原長巨が伊豆木村に陣屋を構えた理由などを、講師の先生の話を手がかりに一緒に考えてみましょう。

《申込〆切》9月6日

※ 定員(30名程度)に達した場合、受講をお断りする場合があります。

● イベント参加申込方法

上記の締切日までに、歴史研究所に電話・FAX・メールのいずれかで、次の情報をお知らせください。

(歴史研究所の連絡先は1面に掲載)

① 氏名

② 受講方法 (会場／オンライン)

※ 地域史講座 (三穂) は、オンライン開催をいたしません。

③ 電話番号

④ 郵便番号・住所 (オンライン参加のみ)

「現代」とはどのような特徴をもつ時代でしょうか？そして、「現代」とはいつ頃からと認識すればよいのでしょうか？「長野県史」現代（史）編の編さんが話題になりはじめてから、「現代」とは何か、「現代史」の対象と方法とは何か、といった問題を、多様な人びとと深く考え、話しあわなければならないと感じてきました。

現代史は 1945 年 8 月から始まるのでしょうか？総力戦や社会主義の問題、大衆消費社会などはすでに 20 世紀はじめに明確にすがたを表しています。「20 世紀史としての現代史」という視点が大切です。

方法＝視点の問題はどうでしょうか？ 5 つの視点を考えてみたいと思います。①「戦後」としての現代」。第二次世界大戦によってもたらされた被害や社会的変動がどのように戦後社会をかたちづくり、また未解決のまま残されているか、地域を舞台に描いていく視点です。②「戦争と平和、その緊張と拮抗、としての現代」。冷戦と地域、朝鮮戦争・ベトナム戦争など「戦後」

の戦争と地域社会の関係を描き、同時に、平和をもとめたこの地域の民衆運動を描くことです。以下簡単ですが、③「成長としての現代」―高度経済成長が地域社会に与えた影響、④「多様性と相互承認・共生、としての現代」、そして、⑤「人間を問いなおす時代、としての現代―いのちと尊厳(私)・相互理解と共生(私たち)の現代」といった視点です。いずれも史料発掘をふくめて新しい研究課題となるでしょう。

古島敏雄さんは 1920 ～ 30 年代飯田下伊那地域史研究に対して「同じ地方の農民が一義的に進歩的であったり、国家主義的であったりするような研究論文には我慢ができなくなる」と述べています（『子供たちの大正時代』）。現代はあらゆる歴史的事象が「ふくらみ」を持っています。多様な視野をもって史料を発掘・収集・整理し、同時に両義的なものの見方への感度を磨きつつ、飯田下伊那地域の現代史研究をいよいよ本格的に始めてみませんか。

位京の棚田

史料紹介

岩田 会津（研究員）

先日、橋北仲ノ町にある安東弘雄さんのお宅から、棚田を撮影した写真史料が 18 枚発見された。うち一枚の印字から、撮影時期は 1951 年 11 月頃と判断される。画面には谷筋に棚田の広がる様子が複数の角度から映し出されており、右に掲げたのはその一枚である。畦に藁をかけたハザがならび、谷の麓に数件の民家が建つ。撮影の背景は不明だが、在りし日の農業風景がありありと浮かぶ、きわめて印象的な写真である。

撮影場所は、南アルプスと天竜川を臨む構図や、画面にうつる谷・尾根の輪郭などから、「飯田インター西」交差点からさらに西にある、伊賀良北方の「位京」と呼ばれる地区であることが特定できた。この場所の耕地地区画は農業構造改善事業による整備をうけ変わってしまったが、航空写真上では 1970 年代まで、写真に映るのと同様の棚田のすがたを確認できる。その耕地のあり方は周囲と比べて大きく異なるものであり、当時、この棚田は周辺地域でひととき目を引く景観であったと考えられる。

発見した写真を、位京に古くからお住まいの松澤秀



▲ 位京の棚田風景（安東弘雄氏所蔵写真より）

和さんにお見せしたところ、ここの棚田は水路も道もなく、谷際の随所からしみ出る湧水を高所から順々に流し込むことで、脚が膝までつかる水田ができたことを教えていただいた。用水を使わないその耕作方法は、中近世にかけて天竜川の河岸段丘面が大規模に灌漑される前の、下伊那の古い時代の農業形態につながると思われ、非常に興味深い。（次面につづく）

(前面つづき) また、この地域は画家・原田泰治が少年時代を過ごしたことで知られる。松澤さんは原田氏の旧友であり、棚田にあった眼鏡形の田地に、彼が「めがね田んぼ」と名前を付けていたことなどを、懐かしそうに語ってくださった。この写真にみられる風景には、撮影された時点の状況だけでなく、過去から現在まで、時代を超えた様々な人々の営みが重層的に投影されている。そのことがこの棚田の景観の魅力を、より一層引き立てているというべきであろう。



▲ 位京上空 (国土地理院 1977 年撮影航空写真より)

地域史ゼミ 参加者募集!

担当：伊藤 悠 (研究員)

歴研ゼミ & ワークショップ

地域史ゼミでは、飯田下伊那の社会や経済に関わる史料・文献を読解します。近代の飯田下伊那は、近世までの経済活動の蓄積をベースとしつつ、産業、交通、資源利用といった点で新たな展開を見せました。たとえば、山林は林産資源を地域に供給して主要産業の蚕糸業を支えつつ、財政面でも重視されるようになり、現代の財産区にもつながります。そうした経済発展が政治や社会とどのように結びついていくのか、できるだけ多くの文献や史料を比較検討しながら考えたいと思います。

ゼミの構成は、以下の二本柱を予定しています。

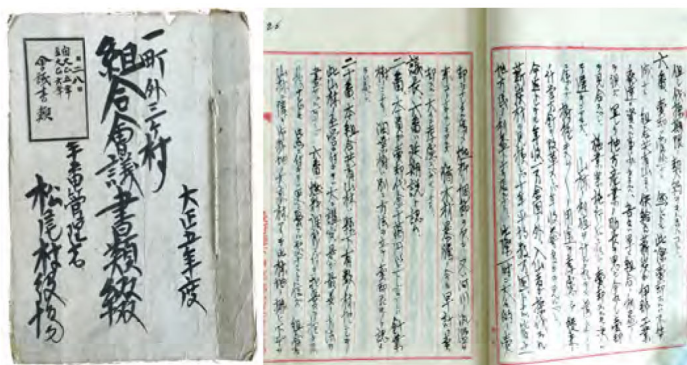
① 史料

山林や入会などに関するものなどを考えていますが、出席者と一緒に決める予定です。

② 文献の輪読

関連するテーマを取り上げた文献を輪読します。こちらでも選定について出席者と相談しますが、近代を対象とする文献を中心に選びます。

《日時》毎月第2金曜日 18:30 - 20:30 を予定



▲ 松尾村組合会議書類：松川入山林売却に関する記載

※ 詳細・参加希望は、
歴史研究所までお問い合わせください。

8月・9月の予定

近世史ゼミ

担当：羽田 真也 (研究員)

〈第2・4水曜日 18:30 - 20:30〉

8月14日・28日 / 9月11日・25日

建築史ゼミ

担当：岩田 会津 (研究員)

〈第3金曜日 18:30 - 20:30〉

8月16日 / 9月20日

地域史ゼミ

担当：伊藤 悠 (研究員)

〈第2金曜日 18:30 - 20:30〉

8月9日 / 9月13日

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

〈第1・3水曜日 19:00 - 21:00〉

8月7日・21日 / 9月4日・18日

満洲移民研究ゼミ

担当：本島 和人 (調査研究員)

〈第1土曜日 10:00 - 11:40〉

第151回 8月3日 / 第152回 8月31日

近現代史ゼミ

担当：田中 雅孝 (調査研究員)

〈第4土曜日 10:00 - 11:40〉

8月24日 / 9月28日

●お詫び 歴研ニュース No.130「新所長挨拶」において、所長の氏名が脱落していました。所長は「伊坪 達郎」です。お詫び申し上げます。